

平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立意東小学校)

平成31年2月15日

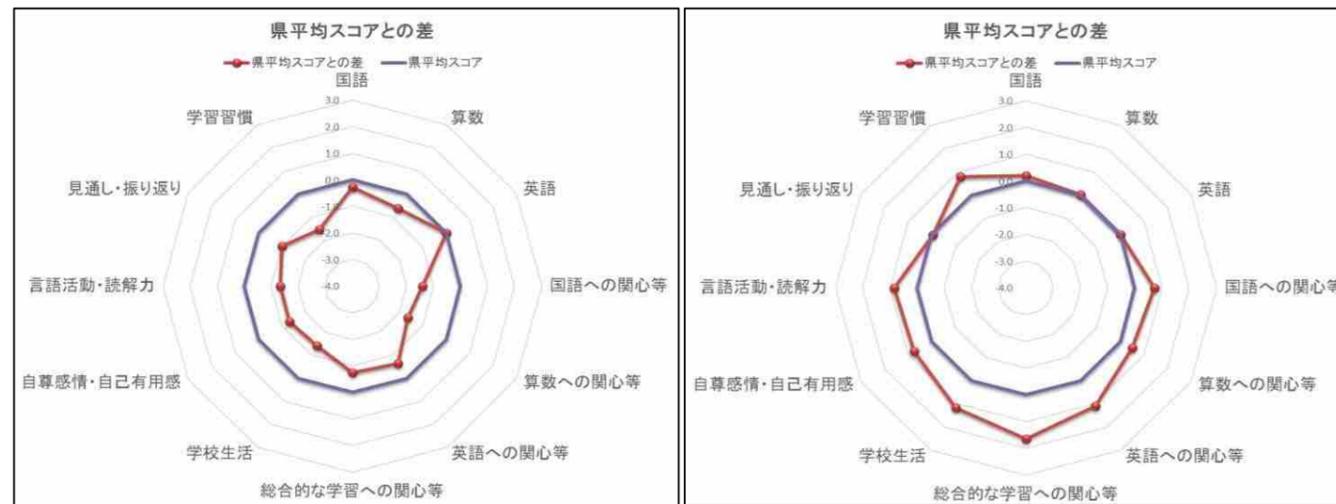
(1) 学力調査結果から見られた傾向

| | | 成果と課題(○:成果、●:課題) | 対策 |
|----|----|--|---|
| 5年 | 国語 | ○今までの図書館教育が支えとなっている。 ●文章を読みこなす力が不十分である。 ●ローマ字の定着が不十分である。 | ・ローマ字の復習をし、ローマ字に触れる機会を増やす。 ・文章を読んで課題を見つける力、表現する力をつける。(新聞ワークプリント等の活用) ・主題を短い文やタイトルをつけるなど、言い換える力をつける。 |
| | 算数 | ●学習意欲が湧いてこない児童が多い。 ●既習事項の定着が不十分である。 ●問題の意図を理解する読解力が不十分である。 | ・一人一人の達成状況やつまづきをきめ細かく把握し、個に応じた学習内容を提供する。 ・一人でする内容の復習プリントを提供し、「やった」「できた」「分かった」を積み重ねる。(勉強貯金など) ・自分たちの意志で勉強に取り組み(自己決定)、一人一人のペースでできるような対策をする。 |
| 6年 | 国語 | ○いずれの領域も県平均を上回った。 ●漢字の読み書きが弱い。 | ・書き取り練習など基礎的な学習を繰り返し行う。 |
| | 算数 | ○記述式の問題、活用問題ができていた。 ●小数と分数の基本的な計算が定着していない。 | ・計算練習を繰り返し行い、基礎的な計算力を身につけるようにする。 |

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

| | | 成果と課題(○:成果、●:課題) | 対策 |
|----|------------|--|--|
| 5年 | 授業改善に関わる事項 | ○ペア、グループ学習や調べ学習が学習意欲につながっている。 ●分かった感、やり終えた感、できた感がなく、自己肯定感が低い。 | ・やり終える経験を増やし、ヒントをもとに自力でできる力をつける。 ・学び方・やり方・進め方の指導を強化して、自主的な学習を促す。 ・児童の実態に合わせた授業づくりができるよう教師の授業力向上を目指す。 |
| | 家庭学習に関わる事項 | ●家庭学習の時間確保が十分できていない。 ●地域や社会の問題に関心が低く、地域行事に参加する児童が少ない。 | ・保護者が宿題をチェックする欄を設けるなど、もっと家庭との連携を図る。 ・宿題を丁寧に見ていくことのできるような校内体制を組織して指導していく。 |
| 6年 | 授業改善に関わる事項 | ○総合学習への関心が高い。 ●振り返りの意識が薄い。 | ・振り返りの時間を確保し、自分の成長が分かる振り返りの仕方を工夫する。 |
| | 家庭学習に関わる事項 | ○授業の復習がよくできている。(自学) ●自分の課題に合った家庭学習ができていない。 | ・一人一人の課題が実感できるような授業づくりをする。 |

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

| | | 国語 | 算数 |
|-----|-----|----|----|
| 5年生 | 本校 | 58 | 41 |
| | 松江市 | 63 | 55 |
| | 島根県 | 63 | 55 |

受検者数
5年生 35人

(参考) 平均正答率

| | | 国語 | 算数 |
|-----|-----|----|----|
| 6年生 | 本校 | 70 | 59 |
| | 松江市 | 69 | 60 |
| | 島根県 | 67 | 59 |

受検者数
6年生 23人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

